

臨床研修修了にあたって

臨床研修を終えて

歯科総合診療部 星 亘



1年というのは本当に早いもので、去年の今頃は国家試験を控え、毎日図書館に通っていた日々が信じられないくらいです。学生時代は大して優秀でもなかった私ですが無事に歯科医師としてのキャリアをスタートすることができました。私は現在総合診療部で1年間の臨床研修を行っています。私は本学出身なのですが、学生の臨床実習中に同じ総合診療部で研修を行っている当時の研修医の先輩方、熱心に指導されている指導医の先生方の姿を見て、この研修コースなら確実にステップアップできると思い、このコースを選択しました。研修が始まると、まず実感したのは“診療時間”です。学生時代も診療を行ってきましたが、当時は3時間枠という中での診療で、時間はたっぷりある中での診療でした。

現在は1時間半枠で診療を行っていますが、4月～5月頃はこの変化に慣れるのに必死でした。具体的には、この処置を何分で終わらせるか、今日はどこまでをゴールとするか、予定外の問題が起きた場合にどうするか、などを強く意識するようになりました。今でも診療が予定通りにいかず、時間が押してしまう事がたまにありますが、研修開始時と比べると、物事を考える柔軟性、予定外の事態が起こった時の対応力はかなり身に付いた気がします。この研修コースの良いところは同期の人数が多く、基本的にペアで診療に臨むところです。それぞれの分野の専門家である指導医の先生方と治療計画、治療方針について相談できることは貴重なことですが、さらに診断、治療するにあたって同期のペアとお互いの意見を交わし合

い、臨床で生じた疑問を考察することで、今まで自分になかった知識や考え方が生まれました。自分が経験したことない症例の話同期から聞くことで勉強になり、自分ももっと頑張らなくてはとモチベーションの向上にもつながりました。同期がいたからこそお互いに切磋琢磨し、自分もさらに成長できたと感じております。総合診療部以外の場所でも病棟、摂食・嚥下リハ室、顎関節治療部にて研修を行いました。そこでは普段、総診では経験することができないような全身疾患を持った方や高齢者への治療や外科的技術を学ぶことができました。埋伏抜歯の症例を経験できたのもいい思い出です。この1年間を振り返ると素晴らしい指導医の先生方や仲間、ペアにも恵まれ、非常に充実した研修医生活を送れたと感じています。今後はこの一年間で得たことを糧に常に初心を忘れず、今後の歯科医師人生を送ってきたいと思います。

臨床研修を修了して

歯科総合診療部 河野 晴 奈



つい先日まで国家試験対策を行っていたかと思えば、気が付いたら歯科医師免許を手にし、あれよあれよという間に臨床研修が終了しようとしています。光陰矢の如しと言ったところでしょうか。

私は外部出身でしかも臨床実習から臨床研修までブランクがあったため、歯科医師として患者様を診療することに対して大きな不安がありました。案の定、4～5月はとにかく新潟大学の診療現場に慣れることで必死でした。周りの先生方に診療中の注意や治療手順などを教わりながらのたどたどしい診療から始まりました。正直なところ、

今から当時の自分を思い返してみても「もっとしっかりしろ」と怒鳴りつけたくなるほどです。

診療を始めての第一印象は「教科書で学んだことが全てではない」という事でした。臨床実習中も思ったことであり、部活の先輩などにも言われていたことではあるのですが、自分が治療する立場になるとより強く感じました。教科書の内容は理解できていても実際行動すると上手いようにいかない。行動できても手際が悪く予定していたより時間がかかってしまう。特に初めてクラウン除去を行った際は器具の扱いがうまく出来ず、患者様にも不快な思いをさせてしまいました。この時は自分の不勉強と不甲斐なさが情けなく、歯科医に向いていないのではないかと本気で落ち込んだものです。

少しずつ慣れてきたところで「まったく同じ診療は存在しない」と治療を進めていく際に感じるようになってきました。同じ治療内容でも患者様によって注意すべき点は異なるし、場合によっては手順も変わってきます。何より私たち歯科医側にしてみれば数多く行った治療のうちの一つでも、患者様からすれば1回限りの治療です。「この治療は簡単だから」という甘い考えで臨むと手技

にもミスが生じやすくなります。もちろん手際よく素早く治療を行うことは大切ですが、1回1回の診療を丁寧に行うことを忘れていけないと思いました。

診療自体だけでなく係の仕事からも学ぶことが多かったです。総合診療部の係は技工係・予診係・受付係とあり、その都度患者様への対応や予診の取り方など学ぶことはたくさんありました。特に技工係は医員やレジデントの先生方のアシスタントを行うため、自分の担当患者以外の診療光景を間近で見学できるため自分の手技と比較して考えたり治療内容を学んだりと参考になりました。

この1年を通して治療を始め、様々な経験を重ねて少しは成長できたかと思います。もちろん先達の先生方に比べたらまだまだのヒヨコ歯科医師ではありますが、この研修で学んだことを今後も生かして患者様と接していきたいと思います。

最後になりましたが、総診の指導医を始め医員・レジデントの先生方、摂食リハビリテーション科・口腔再建外科・顎関節症科の先生方、ペアの原先生及び同僚の先生方、その他全てのスタッフの皆様へ感謝します。1年間ありがとうございました！

ミニコラム

歯のふれ愛ひろば

歯学科3年 清水梨紗

昨年11月の下旬に私が参加した「歯のふれ愛ひろば」について紹介したいと思います。これは私が所属する新潟大学歯学部手話サークル SHUWA ☆ RING が毎年行っているもので、主に聴覚障害者の方におかれて行われる歯科指導のイベントです。日頃の活動では日常会話の手話を学んでいる私たちですが、夏休み前からこのイベントに向けて先生をお招きし、歯科指導のための手話や、障害者の方々について学んできました。当日は寒い中にも関わらず、聴覚障害者の方以外にもたくさんの方に参加して頂き、練習を重ねた手話で歯科の知識を提供することができました。練習の中での手話は単なる身振りだけでしかなく、ただ覚えることに必死でした。しかし手話が聴覚障害者の方に通じた瞬間には、それが生きた言葉となり、人と人をつないでいるのだと実感しとても感動しました。反省点も多くありましたが、一生懸命私たちの話を聞いて下さる姿に、私たちの将来である歯科医師や歯科衛生士、社会福祉士のあるべき姿が見えたような気がします。この経験が勉強へのモチベーションにもなり、日々の学習の支えとなっています。

